

進行期パーキンソン病に対する デバイス補助療法



～LCIG(L-ドパ持続経腸療法)を中心に～

2022年



ドクターによるZOOMウェビナー

11月30日(水) 12:15～12:45

パーキンソン病は人口10万人あたり150人程度で、50歳以上では100人に1人の有病率と言われ、高齢化に伴い増加傾向となっています。平均的には発症後20～30年の経過をたどるとされ、医療・介護上大きな問題になってきています。パーキンソン病治療は、主に薬物療法、DBSなどの外科治療、リハビリテーションが三位一体となっています。

進行期になると通常の経口内服で限界が生じてしまいます。LCIGは薬物治療に位置付けられ、持続的に空腸にレボドパ・カルビドパを投与するものです。このセミナーでは、LCIG療法におけるメリット、デメリット、当センターにおける具体的なLCIG療法導入への取り組みについてお話しします。

目次

1. パーキンソン病およびその治療について
2. デバイス補助療法 (DAT) とは
3. LCIG(レボドパ/カルビドパ水和物配合経腸用液)療法について
4. LCIG療法導入に関する当センターの取り組み



本講座はZOOMを使ったオンラインセミナーです。受講するには、ZOOMを利用できる環境が必要です。

お申し込みはWEBから

右記QRコード※ または センターHP よりお申し込みください

- ・ 申込の際は、メールアドレスの入力間違いに御注意ください。
- ・ 申込が完了するとno-reply@zoom.usからメールが届きます。
- ・ 受信拒否設定等されている方は、こちらのメールアドレスからの受信を許可してください。
- ・ 申込個人情報の取扱い：お申込みの際に取得した個人情報は、受講管理にのみ使用し、他の目的には使用しません。
- ・ ウェビナー参加にかかる通信料等は、視聴される方の負担となります。
- ・ 本研修の録画・録音、及び資料の2次利用、詳細内容のインターネット上への投稿等はお断りいたします。

これらの行為が発覚次第、著作権侵害として対処させていただきます。

※ QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

＼当日までお申し込み可能です！／



問合せ先：埼玉県総合リハビリテーションセンター 職員・企画担当
電話：048-781-2222 メール：n8122221a@pref.saitama.lg.jp

埼玉県のマスコット コバトン&さいたまっちゃん

講師

脳神経内科

橋本 祐二

- ・ 医学博士
- ・ 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- ・ 日本神経学会認定神経内科専門医
- ・ 難病指定医

医師に直接

質問できるチャンス！

対象者

- ・ パーキンソン病の患者様・ご家族
- ・ パーキンソン病にかかわる医療関係者
- ・ 福祉施設職員・スタッフなど